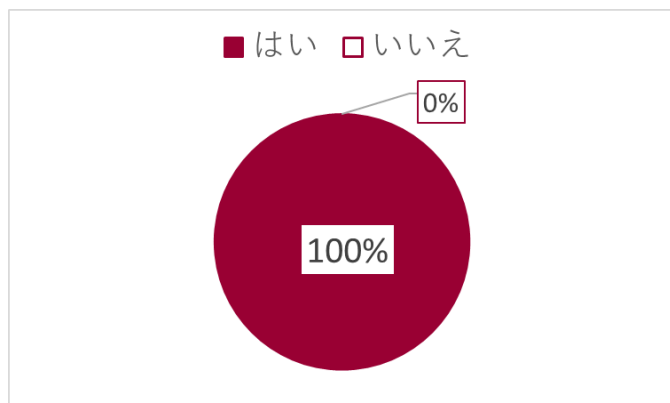


教育実習生のアンケート結果(令和5年度)

令和5年度（春学期）は、小学校 10 名、中学校 1 名、高校 9 名の計 20 名が教育実習を行った。教育実習生に対する調査（回収率 100.0%）の結果によると、小学校で 4 週間の教育実習を行った学生の場合、授業観察時間が平均 54 時間、授業実習時間が平均 14 時間であり、教職課程履修者として濃密な時間を過ごしていることがわかる。また、以下の円グラフに示す通り、学生たちは教育実習に高い意識をもって臨んだことも明らかである。

教育実習に目的をもって臨んだか



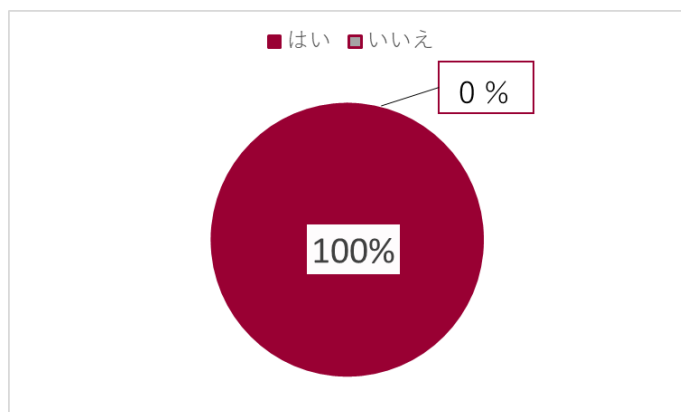
【内訳（複数選択可）】

- ① 自分に教員としての適性があるか、試してみたい（85.0%）
- ② 学校教育の現場に身を置いて、学校教育の実際や重要性を直接理解したい（80.0%）
- ③ 実際に児童生徒の中に飛び込んで、大学の授業で学んだことがどれくらい生かせるか、試してみたい（70.0%）
- ④ 学校（小・中・高）という職場の人間関係を知りたい（45.0%）

一方、アンケートでは、実習生が実習中に困ったことや、実習前に学んでおくべきだったと反省したことも回答してもらっている。それらを整理すると、教育実習生としてどこまで活動してよいかの判断、教科に関する専門的知識の欠如、指名や発問の仕方、学習指導の仕方などに関することが多い。これらの内容は、3 年生以下の学生にも教育実習報告会にて伝達し、かつ、紙媒体でも共有している。この取組は、3 年生以下の者が実習準備を入念に進めるための動機づけにつながっているのみならず、本学教員の授業改善にも活用されている。

こういった取組の結果、教育実習の満足度や実習前後の意識変化に関しても、以下の通り、肯定的な内容が見られた。

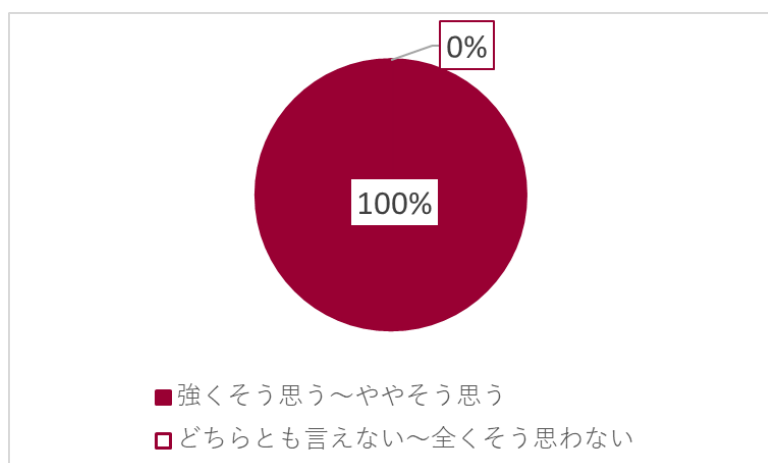
教育実習に行ってよかったと思っているか



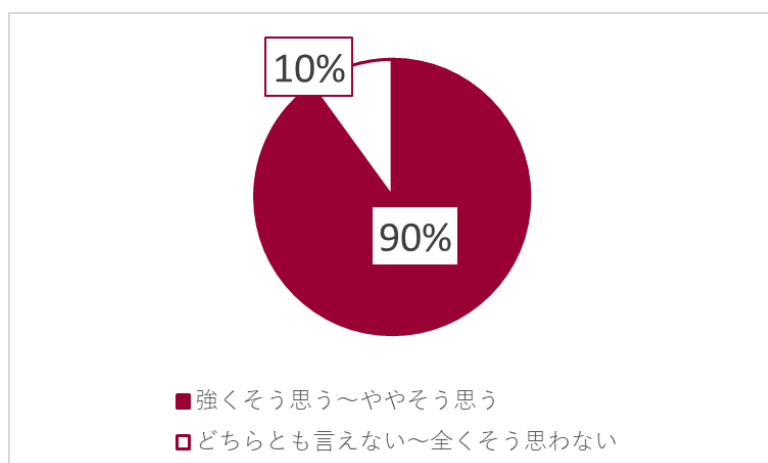
【「教育実習に行ってもよかった理由」(自由記述)】

- 多くの先生方のご指導や子どもたちの支えで充実した教育実習となり、教員になりたいという気持ちが高まったから。
- これまで教師としての立場で教育現場に行くことがなかったため、様々なことが学べたから。
- とても大変でしたが、楽しい1ヶ月でした。小学校教員の仕事を知れたり、子ども達と長い時間触れ合えたりするなど、教育についてさらに勉強したいと思いました。
- 大変なことも沢山ありましたが、それ以上の達成感と感動を感じる事が出たからです。実際の教師の苦勞を知ると同時に、仕事に対するやりがいも感じる事が出来ました。
- 実際に現場でしか体験できない事を経験できたから。そこで、私に足りないモノを知る経験となった。
- 実際に教壇に立って生徒との関わり方や、教員の仕事とはどのようなものであるのかを学ぶことができたから。
- 今まで大学で模擬授業をやっていたが、実際に生徒の前でやるのは全然違うので勉強になった。また、社会人がどのようなものかが少しわかったから。
- 自分が経験してきた、見てきたことだけではわからないほど、多くの先生方がさまざまなところから支えてくれたから日常を送ることができたことと感謝できたこと。また、自分が教員という職業に対してどれほどの感情を抱いているのかも知ることができたから。

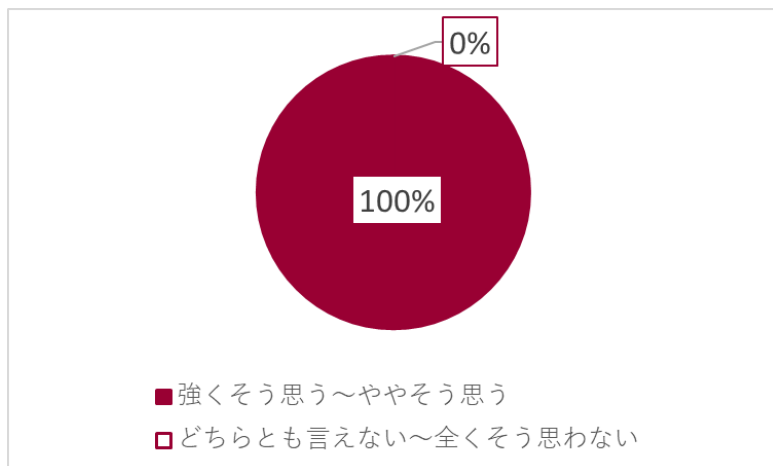
教員という職業についての理解が深まった



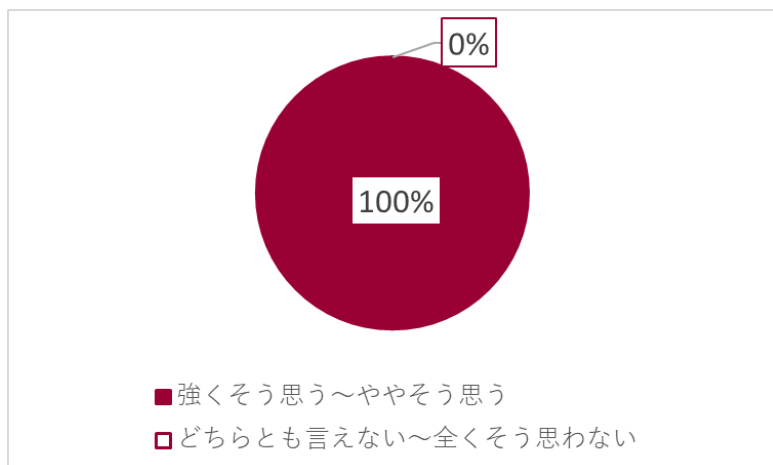
実習後、自分の学習に真剣になった



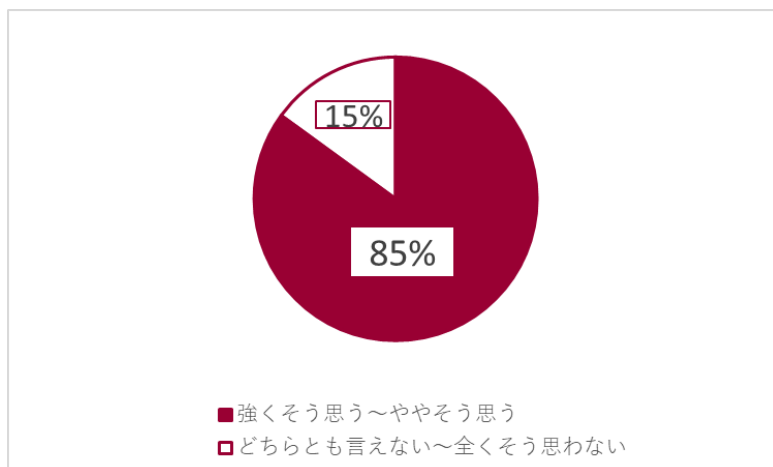
実習後、教育問題への関心が強くなった



実習後、相手の気持ちを考えるようになった



実習を終えて、教員の仕事に非常に魅力を感じますか



実習を終えて、教員の仕事はあなたに適した仕事であると思いますか

